

トランスジェンダー受け入れ

女子大7校「将来は検討」

県内調査 神戸女学院すでに議論

お茶の水女子大(東京都)が7月、戸籍上は男性でも性別は女性だと認識するトランスジェンダーの学生の受け入れ方針を表明し、全国的女子大や女子短大の対応が注目されている。兵庫県内の10女子大・短大に神戸新聞社がアンケートしたところ、すでに議論を始めているとした神戸女学院のほか、7校が「将来的に検討したい」と回答。また、入学を認めづらい要因としては、他の学生や保護者への影響、更衣室やトイレといった設備面などが挙げられた。(小川 晶)

神戸新聞社が7月下旬、県内の8女子大(系列の短大や短期大学部は1校として扱った)と2女子短大の学長宛てに文書で質問。園田学園女子大を除く9女子大・短大が回答を寄せた。トランスジェンダーの学生受け入れを巡る対応を選択式で尋ねたところ、神戸女学院が唯一、「現在、検討している」と回答。学

門家の講演会などを開いているほか、幹部会議でも議論を始めていることを明らかにした。一方で、同大の斎藤学子学長は、取材に対し「受け入れ前提の検討ではなく、出願を認めるかどうか、大

学として知識を深め、話し合っている段階」と強調。「進学に当たって、女子大であることを優先する学生もおり、軽々に判断できない」とした。

トランスジェンダーの学生の受け入れ検討アンケート

将来的に検討したい 現在、検討している
現時点で検討する予定はない 無回答

甲南女子大(神戸市)	社会の意識が変化していく中、社会に必要とされる大学であり続けるためには、真摯に向き合う課題だ
神戸海星女子学院大(神戸市)	-
神戸松蔭女子学院大(神戸市)	教職員、学生、同窓会の理解を深める取り組みが必要。受験生への影響、すなわち高校で性的少数者への理解が深まっているかも考慮する必要がある
神戸女学院大(西宮市)	正確な知識を得るために、教職員・学生に対して講演会等を実施。大学執行部において議論、検討を重ねている
神戸女子大(神戸市)	社会情勢等をみながら検討していく
神戸親和女子大(神戸市)	トイレや更衣室など施設面の課題がある
武庫川女子大(西宮市)	検討するべき課題と考えるが、学生、保護者、教職員らの理解と認識が不可欠となり、慎重な対応が必要だ
園田学園女子大(尼崎市)	-
甲子園短大(西宮市)	学生、保護者の受け止めの理解、受け入れる場合の施設及び体制、配慮内容など十分に情報収集し、検討したい
聖和短大(西宮市)	本学を運営する学校法人関西学院が設置する男女共学の関西学院大では検討が進んでおり、本学も受け入れと対応のあり方について将来的に検討していきたい

※回答は一部要約

トランスジェンダー 出生時(戸籍)の性別と自身の性別が異なっていると感じる、心と体の性が一致しない人。レスビアン(女性の同性愛者)、ゲイ(男性の同性愛者)、バイセクシュアル(両性愛者)とともに、LGBT(性的少数者)と位置づけられている。お茶の水女子大は7月、「多様性を包摂する社会への対応として当然」として、戸籍上は男性でも自らの性別を女性と認識する学生を2020年度から受け入れると発表した。

「将来的に検討したい」と回答したのは7校。その理由には「社会に必要とされる大学であり続けるために、真摯に向き合う課題」(甲南女子大)、「学生、保護者の理解、受け入れる場合の施設、配慮内容など十分に情報収集したい」(甲子園短大)などの記述があった。

「現時点で検討する予定はない」を選んだ武庫川女子大は、多くの女子大が入学資格を単に「女子」とする中、「戸籍上の女性」と明確に規定。トランスジェンダーについては検討すべき課題と認めつつ「学生、保護者、教職員らの理解と認識が不可欠」とした。アンケートでは、受け入れを認めづらい要因も尋ねた。「配慮のあり方等についての教職員の研修や学生への教育の実施」(聖和短大)▽「他の女子学生の戸惑い等」(神戸女子大)▽「学内設備、学外実習先等の理解、トランスジェンダーの認識基準等」(甲南女子大)などの回答があり、実現に向けてはさまざまな課題がある実態が浮き彫りになった。

トランスジェンダーの学生の入学を巡っては、お茶の水女子大のほか、奈良女子大(奈良県)や日本女子大(東京都)、津田塾大(同)なども受け入れに向けた検討を進めている。